

第3回 幹事会レポート

日時 2011年6月4日 14:00～15:50

会場 昭和音楽大学北校舎 3F 会議室

出席者 柳田、吉田、下八川、森下、阿方、生頼、小倉

審議事項

1. 第7回大会の内容

とき：20011年11月12日（土）10：30～18：00

ところ：東京学芸大学 芸術館 音楽棟

実行委員：中地雅之（委員長）、学芸大若手2名（予）、小倉隆一郎、田中功一、森下絹代、阿方 俊、
生頼俊秀

会場：芸術館、会議室2教室（プロジェクター、スクリーン付）、M.L.ルーム2教室（1教室）、控室

10:00	受付 芸術館ロビー
10:30	あいさつ 会場関係者、柳田（学会代表）、APEKA 関係者
10:50	基調講演：郭宗愷（台湾・東海大学）
11:30	総会
12:00	昼食（ランチタイムミーティング）、森松（電子オルガン）、酒井（学生）、影山（生涯）ほか
13:00	パネルディスカッション1 EO 関連 “ハイブリッド オーケストラの可能性” パネルディスカッション2 ML 関連 “音大、教育大、保育者養成大 ML 教育の現状” ラウンドテーブル1 生涯学習関連 “生涯学習の現場と課題”
14:30	休憩
15:30	研究発表 ① EO 関連：小熊達弥、森松慶子ほか ② ML および生涯関連：学芸大関係者ほか（M.L.）、松本裕樹（生涯） ③ 海外関連：中国（APEKA 関係者）、西岡奈津子（韓国）、海津幸子（イタリア）
16:50	コンサート会場移動
17:00	研究コンサート Prof. Plage および学芸大有志による電子キーボードアンサンブル リスト “悲愴的協奏曲” ほか
18:00	懇親会（20世紀記念館＝第3回大会会場）

- ・あいさつ 会場関係者 ⇒ 中地先生に依頼、APEKA 関係者 ⇒ 複数招聘状要請あり
- ・基調講演者 ⇒ 来日確認済（5月20日）
- ・ランチタイムミーティング ⇒ 各分野ごとに、各人が呼びかけてランチを取る
- ・パネルディスカッション
EO パネリスト ⇒ 太田茂（第6回研究コンサート）ほか現場実践者

ML パネルディスカッション ⇒ 教育機関のジャンル別の ML 教育の現状を 2 or 3 ジャンルに分かれて探り、ジャンル別の司会・進行によりより深化したディスカッションを追求する。

音大=森直樹 教育大=中地先生に推薦依頼 保育者養成・初等教育=小倉隆一郎

・コンサート ⇒ 会場校で企画する

ML の標記について、吉田幹事より次の提言があった。M.L.(Music Laboratory)は現在、日本のみで流布する略称であり、海外では通用しない。よって、他に適切な文言を使用したい。この件について、アメリカイーストマンでは「グループピアノレッスン」という名称を使っている。ML の代わりに「電子キーボードを使用した基礎教育」はいかがか、また電子オルガンに対する「電子ピアノ」という部門名はどうか。等々の意見交換がなされ、18 日の ML 研究部会ワークショップで講師のマユミ・マツツェン氏に意見を聴くこと、および幹事がこの件に関する情報収集を行って、次回幹事会で引き続き検討することを話し合った。

APEKA 関係者の研究発表があった場合、通訳は聖徳大学の留学生に依頼する。

基調講演者郭宗愷氏の招聘に関して、渡航・滞在費(実費 10 万円程度)・謝礼(5 万円)を学会より支出することが了承された。APEKA 関係者については通訳を除く支出はないものとする。

大会参加費用について、大会参加費 1000 円、昼食希望者 600 円(予定)とする。

2. 学会誌投稿状況

投稿の現状：報告:西岡奈津子（韓国室内オペラ）、論文:梅都優子（スコアリーディング）

投稿予定者：森松慶子、金銅英二

その他(転載予定論文)：台湾・東海大学論文集 Mark Manno “Keyboard Skills Class: A Pedagogical Microcosm for the Music Curriculum”、

(財) 機械振興協会経済研究所 泉たかし “電子楽器産業の現状と展望”

3. M.L.ワークショップ

下の要領で ML 研究部会ワークショップ 2011 を開催する。

テーマ:アメリカの M.L.を活用した教育から何を学ぶか～イーストマン音楽学校のグループピアノレッスンを通して～

と き：2011 年 6 月 18 日（土）15：00～17：00

ところ：昭和音楽大学南校舎 B-312 号室

講 師：マユミ・マツツェン（イーストマン音楽学校博士課程ピアノ演奏修了、元イーストマン音楽学校グループピアノ講師） 内容の詳細は案内を参照のこと

4. ホームページ

5 月 1 日より、ホームページの管理を仁田先生から田中功一先生に移管した。

日本語のトップページのみ、アクセスカウンターの付近に since2011_5 を表示する。

柳田代表幹事より、学会ホームページにワークショップや海外における電子キーボード活用報告等のビデオ・写真をアップしたい旨の提案があった。肖像権の問題があるので、被撮影者に承諾を得ること、および撮影時にできるだけ顔を映しこまない等の配慮が必要であるとの意見が出された。

5. 学会退会

野口剛夫元幹事の退会届について、退会が承認された。

6. その他

次回幹事会日程 10月1日もしくは8日とする。ただし、中地大会実行委員長が出席できる日程を設定する。

報告事項

1. 電子キーボード関連情報

阿方幹事より以下4点について報告された。

- ① 1回アマビレ電子オルガンコンテスト ⇒ 楽器メーカー一社でなく、エレクトーン、アトリエ、ハモンドオルガンが参加。NPO法人（代表：建石紀子）による全国初のコンテストとして注目された。活動報告が学会誌へ投稿される予定
- ② 台中教育大学および東海大学の M.L.教育 ⇒ 台中教育大学の M.L.教室ではフィナーレなどのソフトを用い、楽譜制作やアニメソングづくりにも範囲を広げ、東海大学では、アメリカ人のマーク・マンノ准教授がアメリカの教材を使用したアメリカ流の包括的教育が行われていた
- ③ 東海大学ファカルティコンサート ⇒ 5月19日、台中市の中山堂ホールでの教授出演のコンサートで今年度の基調講演者である郭宗愷博士の指揮による東海大学電子鍵盤楽団がアリア、サクソコンチェルト、2台のピアノのためのコンサートを共演。その多彩な活動が注目された
- ④ 星海音楽学院および広州大学シニアキーボードセミナー ⇒ 6月21日、星海音楽学院で“日本の音楽大学における電子オルガン教育”に関する発表、6月22日、23日、広州大学でシニア対象のキーボードセミナーが開催予定。講師：阿方 俊

以上

(文責:小倉 隆一郎)